

## 平成 24 年度幸福度に関する社会調査方針（案）

駒村康平  
内田由紀子

## 1. 基本方針

平成 23 年度「生活の質に関する調査」個人調査は、a) 町村部を含んでいない等、全国人口からの無作為抽出とは言えないこと、b) 調査票のチェックが社会調査の観点から不十分であったことから、パネルの初年度として扱うのは不適切と判断し、分析のみに活用する（全国母集団との比較、選好度調査との幸福度の相違を勘案し、集計値を公表すべきかについても検討を行う）。

したがって、昨年度実施した個人調査を継続せず、研究会報告書の方針通り、世帯調査として新たに制度設計をし直すこととする。なお、前年度の教訓を生かし、本格的な世帯調査の実施に挑戦する上で技術的な支援が不可欠なため、研究会委員以外に社会調査専門家 5～10 名程度に参加頂く調査専門チームを結成した上で具体的な調査方法及び調査票の設計、実査のモニタリングを行う。

## 2. 制度設計

## (1) 調査対象

・全国世帯を母集団とする無作為抽出で 10,000 世帯程度。なお、「被災者」の幸福度調査を実施するか否かは要検討とする。実施する場合は災害援助法適用地域全域ではなく、死者または家屋損壊が発生した等の狭義の被災地とし、全国無作為抽出とは別にオーバー・サンプリングを行って調査対象とする。

・初年度は a) 世帯の状況の把握、b) 対象世帯との信頼性確保、を優先するため、世帯構成員全員を対象とすることとせず、世帯主、世帯主の配偶者（1 世帯当たり最大 2 名）に対して調査を実施。次年度以降、子ども等に拡大をしていくこととする。

## (2) サンプリング方法

・家族類型（単身、夫婦のみ、夫婦と子ども、片親と子ども、三世代、など）の構成を重視し、地域配分では層化はなるべくしないこととする。

・層化多段無作為抽出法とし、具体的な層化方法は統計数理研究所「日本の国民性に関する調査」（1 層目は 6 層：区部・人口 20 万人以上の市部・人口 10 万人以上の市部・人口 10 万人未満の市部・郡部・沖縄県）または国民生活選好度調査（1 層目は約 60 層）を参考に制度設計を行うこととする。

・抽出台帳は、国勢調査から調査地区における居住形態の状況を勘案し、住基台帳と住宅地図の選択が可能か検討する。その際、都市部の若年単身世帯、地方部町村部の高齢者のみ世帯をオーバー・サンプリングすることを検討する。

・被災地で調査を実施する場合には調査地区抽出後の世帯抽出においてエリア・サンプリングを活用する。そのルールは仕様書にも記載する。

### (3) 調査方法

- ・調査票は、a) 世帯の状況を含む世帯主用、b) 配偶者本人の意見を聞く配偶者用、の2種類を用意することとする。
- ・世帯主は面接調査（幸福感、複雑な設問）と自記式（心理尺度など）を組み合わせる。配偶者は面接のほか、ウェブ、電話回答も選択可能とする。

### (4) その他の留意事項

- ・パネルからの脱落を減らすための手だて（時節の挨拶状、引っ越し等の場合の連絡の依頼、結果概要の送付）に関しても仕様書に盛り込むこととする。
- ・調査員の不正を防止する観点から監査の仕組みを仕様書に盛り込むこととする。

幸福度指標作成に必要な質問調査項目一覧と質問項目の割振(案)

分類	番号	質問項目	世帯主			配偶者		第2回以降調査対象	
			第1回		第2回以降	第1回 (面接、電話、ウェブ 選択)	第2回以降	親、兄弟姉妹、子ども (未成年以外)など	未成年
			面接	留置					
家族 (世帯状況の把握)	Q1	性別、年齢	○			○		○	○
	Q2	続柄(確認用)	○			○		○	○
	Q3	同居・別居の別	○						
	Q4	最終学歴(甲退も選択肢に含む)	○			○		○	○
	Q5	婚姻関係	○					○	○
	Q6	婚姻関係の時期	○					○	○
	Q7	一人暮らしの期間	○					○	○
	Q8	世帯人員数、同居人数	○						
	Q9	世帯人員の年齢、性別、続柄、同居・別居の別、婚姻関係、職業	○						
	Q10	両親の居住地	○			○			
	Q11	親族の居住地(子ども、両親ともいない場合)	○			○			
	Q12	子どもの数(確認用)	○					○	○
	Q13	末子の年齢	○					○	○
	Q14	子どもの居住地	○					○	○
	Q15	孫の数	○					○	○
	Q16	家族生活満足度	○			○		○	○
	Q17	寝たきり、介護(認知症の状況含む)、病気、障害を持ち、世話が必要な家族・親族の有無及び続柄(世帯より広く捉えた家族・親族)	○			○		○	○
主観的幸福度	Q18	幸福度(10件法)	△	△	○	○	○	○	○
	Q19	幸福度(5年後)	△	△	○	○	○	○	○
	Q20	理想の幸福度	△	△	○	○	○	○	○
	Q21	人並み感(協調的幸福感尺度)	△	△	○	○	○	○	○
	Q22	<参照指標>人生満足度(Ladder)	△	△	○	○	○	○	○
	Q23	幸福度で重視する項目	△	△	○	○	○	○	○
	Q24	最も影響を与えたライフイベント(自由回答)	△	△	○	○	○	○	○
	Q25	家族生活満足度	△	△	○	○	○	○	○
	Q26	困った人を助けることの自己評価	△	△	○	○	○	○	○
	Q27	困った人を助けた経験(先月)	△	△	○	○	○	○	○
	Q28	一般的信頼	△	△	○	○	○	○	○
	Q29	制度への信頼(政府)			○			○	○
	Q30	意見募集認知度、投稿しない理由			○			○	○
	Q31	環境問題の理解度			○			○	○
Q32	自然などへの畏敬			○			○	○	
Q33	投票経験			○			○	○	
就業状況	Q34	仕事の有無	○			○	○	○	○
	Q35	職種(仕事をしている者)	○			○	○	○	○
	Q36	非正規を望んでいない者(非正規のみ)	○			○	○	○	○
	Q37	仕事の希望(仕事をしていない者)	○			○	○	○	○
	Q38	失業期間(失業者のみ)	○			○	○	○	○
	Q39	自らの起業の希望			○			○	○
	Q40	年間勤務日数、有給休暇取得日数	○			○	○	○	○
	Q41	育児休暇取得経験				○	○	○	○
	Q42	仕事満足度・充実度	○			○	○	○	○
	Q43	職歴(就学中、学卒後、最長、5年後)				○	○	○	○
	Q44	外出頻度				○	○	○	○
	Q45	現在の状況になった期間				○	○	○	○
	Q46	現在の状態になったきっかけ				○	○	○	○
	Q47	ニートひきこもり尺度				○	○	○	○
住居	Q48	住居形態	○					○	○
	Q49	家の広さ	○					○	○
	Q50	家の広さの評価				○		○	○
	Q51	住居の基本設備(EU SILK)	○					○	○
	Q52	住居の環境設備(目張り、雨漏りなど)	○					○	○
	Q53	住居の環境(EU SILK)(ゴミ、騒音、犯罪/暴力など)				○		○	○
	Q54	環境配慮型住居				○		○	○
	Q55	物質的剥奪(耐久財)(EU SILK)	○			○		○	○
	Q56	物質的剥奪(支出)(EU SILK)	○			○		○	○
	Q57	住居満足度				○		○	○
地域	Q58	現在の地域居住期間	○					○	○
	Q59	現在への居住地に住み続ける希望	○			○		○	○
	Q60	身近な環境(買い物、緑地、医療機関、子どもの遊び場等)				○		○	○
	Q61	夜、一人で歩くことができる				○		○	○
	Q62	地域との関わり度				○		○	○
	Q63	社会のためになる役立ちたい意識				○		○	○
	Q64	社会活動(NPO、スポーツ/趣味団体、など)・不参加理由				○		○	○
	Q65	地域の自然、文化への理解度、地域の伝承の認知				○		○	○
	Q66	世代を超えた交流の有無、希望				○		○	○
	Q67	ネットコミュニティ交流				○		○	○
	Q68	最近の募金、献血の経験				○		○	○
	Q69	災害時避難の経験	○			○		○	○
	Q70	フェアトレード購入経験				○		○	○

分類	番号	質問項目	世帯主		配偶者		第2回以降調査対象		
			第1回		第2回以降	第1回 (面接、電話、ウェブ選択)	第2回以降	親、兄弟姉妹、子ども(未成年以外)など	未成年
			面接	留置					
家族などとのつながり	Q71	両親の居住地	○			○		○	
	Q72	近親の居住地	○			○		○	
	Q73	交流頻度(直接)	○			○		○	
	Q74	交流頻度(間接)	○			○		○	
	Q75	病気などの際に救いの手を差し伸べてくれる者	○			○		○	
	Q76	情緒的サポート尺度		○		○		○	○
子どもの頃の経験	Q77	子どものころの本の数			○		○		○
	Q78	子どものころの新聞			○		○		○
	Q79	15歳の時の暮らし向き			○		○		○
	Q80	子どもころの生活扶助			○		○		○
	Q81	子どもの頃の親との交流(本を読んでもらった経験など)			○		○		○
	Q82	生活時間(自由時間など)、満足度	○		○		○		○
健康	Q83	ストレス		○	○	○	○	○	○
	Q84	うつ尺度(CSC-D)		○	○	○	○	○	○
	Q85	健康自己評価		○	○	○	○	○	○
	Q86	長期的な疾患の有無(病名。子どもはアトピー、喘息などを含む)			○	○	○	○	○
	Q87	医療サービス満足度(クリニック、カウンセラーを含む)		○		○		○	
	Q88	日常生活動作(ADL)(高齢者の場合)			○		○		○
	Q89	手段的日常生活動作(IADL)(高齢者の場合)			○		○		○
	Q90	看病などの疲労度	○			○		○	
	Q91	看病などの際の外部サポート体制満足度	○			○		○	
	過去の経験	Q92	被害経験・時期・金額(消費者、犯罪、ハラスメント、DV、自然災害、自己破産など)			○		○	
Q93		東日本大震災被害状況(り災証明、避難生活経験)	○						
Q94		住居を失い、路上生活など経験	○						
Q95		自己有用感		○	○	○	○	○	○
主観的感情	Q96	海外文化受容度			○		○		○
	Q97	孤独感(UCLA孤独感尺度)			○		○		○
	Q98	感情経験(Bhutan+恥など)		○	○	○	○	○	○
	Q99	不安(過労死、孤独死、失業、放射能、老後の生活費、食品安全など)		○	○	○	○	○	○
	Q100	希死念慮		○	○	○	○	○	○
	Q101	子育て満足度	○			○		○	
子育て	Q102	子育て支援サービス満足度	○			○		○	
	Q103	夫(妻)の子育て参加満足度	○			○		○	
	Q104	保育園、幼稚園への入園希望(入っていない者)	○			○		○	
	Q105	子どもの最終学歴予想(経済的理由で進学できない)	○			○		○	
	Q106	学校生活満足度							○
子ども(学校)	Q107	生きる力(コミュニケーションへの不安、困った時に助けてと伝えるなど)							○
	Q108	遊び、就学、塾・習い事の時間配分							○
	Q109	いじめの経験							○
	Q110	発達障害							○
	Q111	帰宅後に一人で過ごす時間			○				○
	Q112	家計が赤字	○		○	○			
経済状況	Q113	住居費負担感	○		○	○			
	Q114	家賃等延滞経験			○				
	Q115	公共サービスの停止経験→最初の経験の時期			○				
	Q116	公的支援(開始時期)	○						
	Q117	年収(世帯全体、同居人毎)	○			○		○	
	Q118	公的給付の有無/金額	○					○	
	Q119	収入の種類	○			○		○	
	Q120	資産	○					○	
	Q121	負債	○					○	
	Q122	年金、保険料支払い状況	○			○		○	
調査数			58	11	67	58	59	86	64